

多彩催し 製糸業歴史に触れる

2025シルクフェアinおかや

旧市役所庁舎ツアー 「ラジエーター」公開も



製糸業で日本の近代化を支えた「シルク岡谷」の歴史文化に触れるイベント「2025シルクフェアinおかや」(実行委員会主催)が29日、岡谷市内で開かれた。岡谷蚕糸博物館など12施設を会場に、糸繰りやものづくり体験、クラフト展、スタンプラ

宮坂製糸所で「上州式繰糸機」を使った糸取りを見学する家族連れ

旧岡谷市役所庁舎を巡るツアーで公開された
床暖房用のラジエーター

旧庁舎のガイドツアーは約40分。市の職員が案内役を務め、「製糸工場」の糸取りで使う蒸気の技術を活用し、室内を暖めた」と解説した。参加者は強化ガラスを施した床から、見下ろして確認。会社員の三澤貴美子さん、同市神明町

は「歴史的背景を感じさせるラジエーター」が取り壊

りなど多彩な催しを企画。昨年に耐震改修工事を終えた旧市役所庁舎を特別公開するツアーもあり、大型連休で繰り出した家族連れらでにぎわった。

国登録有形文化財の旧庁舎は、1936(昭和11)年に製糸家の尾澤福太郎が私財を投じて建築。今回の工事では床暖房用のラジエーターが発見されており、見学会で一般公開するのは初めて。官庁で昭和初期から使われていれば、貴重な事例になるとして調査が進められている。

「シルクの日」の4月29日に開くフェアは29回目。会場では、市が特産化に力を入れるサツマイモの品種「シルクスイート」を使ったプリンなどのコラボ商品「南信州シルクプリンセット」を販売。同博物館と駒ヶ根シルクミュージアム(駒ヶ根市)、大芝高原の管理運営を担う南箕輪村開発公社(同村)の3者が連携事業の一環として提供した。

(小山眞由美)

されず、当時のまま残っている興味深い」と話した。

イベントでは、就労継続支援B型事業所「グラン・ジュテあい工房」で機織り体験会を実施。市内各地で江戸から明治時代の繰糸機「上州式繰糸機」を使った糸取り体験、繭を活用したワークシヨップ、絹製品が集まるクラフト展などもあった。